



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

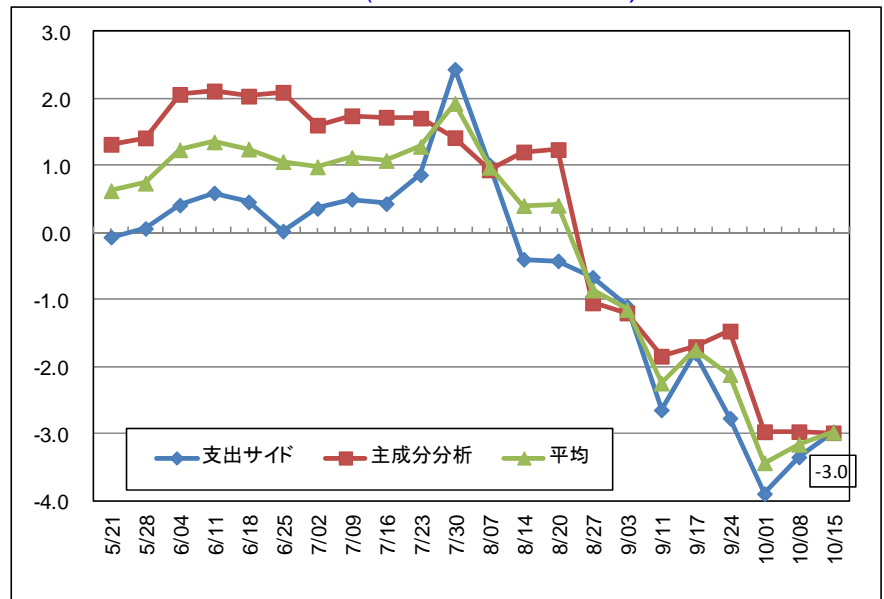
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年10月15日)

ポイント

- ▶先週は、9月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、8月の消費総合指数、第3次産業活動指数、情報サービス業売上高、民間機械受注及び国際収支状況が更新された。
- ▶新たに発表された月次指標を更新した今週のCQM予測(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-3.0%と予測。先週の予測(-3.3%)から小幅上方修正された。
- ▶10月のコンセンサス予測によれば、7-9月期の実質GDP成長率予測は-0.31%と初めてマイナスに転化。悲観的な景気の見方が強まってきたが、CQMはすでに8月半ばの段階でマイナス成長を予測。
- ▶IMFのWEO(世界経済10月見通し)によれば、2012年の日本経済は前回予測より下方修正されて2.2%となっている。現時点のCQM予測は同年の成長率を2.0%と予測しており、CQMはIMFより日本経済を厳しく見ている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%，前期比年率換算)



<CQM は 2012 年の日本経済を IMF より厳しく見ている>

先週は、9月の景気ウォッチャー調査、消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、8月の消費総合指数、第3次産業活動指数、情報サービス業売上高、民間機械受注及び国際収支状況が更新された。これらのデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、純輸出の予測値に影響を及ぼす。

新たに発表された月次指標を更新した今週 CQM 予測(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率(年率換算)を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-3.0%と予測。先週の予測(-3.3%)から小幅上方修正された。

更新された重要なデータの動向をみると、8月の消費総合指数は3ヵ月ぶりの前月比プラスとなったが、7-8月期平均は4-6月期平均比-0.6%低い水準にある。8月のコア機械受注は前月比3ヵ月ぶりのマイナス。7-8月期平均は4-6月期平均比+0.9%増加にとどまっている。センチメントを見れば、9月の景気ウォッチャー調査の現状判断DIは前月比2ヵ月連続の悪化。同月の消費者態度指数は2ヵ月ぶりの悪化となった。10日に発表されたESPフォーキャスト調査(10月)によれば、7-9月期実質GDP成長率予測は同-0.31%と前月調査からマイナスに転じた。民間エコノミストの間では、踊り場ないし不況入りの見方が強まってきたが、CQMはすでに8月半ばの段階でマイナス成長を予測している。

10月9日からIMFの年次総会が日本(東京)で開催され、同時にWEO(10月見通し)が発表された。世界の実質GDP成長率は前回予測から下方修正され、2012年3.3%、2013年3.6%と予測されている。日本経済も2012年2.2%、2013年1.5%と下方修正されている。現時点のCQM予測は2012年の成長率を2.0%と予測しており、CQMはIMFより日本経済を厳しく見ているといえよう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550